

# エグゼクティブ・サマリー

## 2023年新興アジア諸国の成長、回復を示すが、リスク管理が必要

新興アジア諸国では、世界的な不確実性にもかかわらず回復が見られ、2023年には成長が期待されています。東南アジア諸国連合10か国（ASEAN10）、中国、インドで構成される同経済圏の経済は、新型コロナウイルス感染症パンデミック、ウクライナ戦争、経済成長の世界的鈍化によって生じる課題にしっかりと立ち向かいました。輸出セクターは、2022年に同地域の経済成長を後押ししましたが、最近では減速の兆しが見られます。金融セクターは、回復を示しているとは言え、現在の高インフレの環境にあっては注意深く監視する必要があります。

同地域の国々では、さまざまなリスク管理が必要です。食料やエネルギーの高騰など、持続的なインフレ圧力に直面しています。インフレ圧力と先進諸国の利上げが重なり、同地域の資本の流れと現地通貨を圧迫しています。世界的な経済の減速が外需を弱めると予想されています。特定品目の食料安全保障も懸念され、供給側のボトルネックがさらに問題となることで、商品やサービスの価格が上昇し、内需と外需の双方に影響を及ぼす可能性があります。

パンデミックは地域経済のサービス業収支に大きな影響を与え、同セクターはパンデミック前の水準にすぐには戻らない可能性があります。航空会社などの観光・運輸業界では、中国のゼロコロナ政策の放棄は同地域の成長にとってプラス要素となる一方、急増する旅行需要の対応に苦慮するかもしれません。

## 観光事業の回復、適応、課題

パンデミック以前の新興アジア諸国では、旅行・観光産業は好況でした。2019年、東南アジア経済において旅行・観光事業はGDPの11.7%、雇用の13.2%に貢献し、4180万人の雇用を生み出しました。同セクターは、規制により壊滅的となりましたが、規制解除後には回復しました。しかし、観光部門の復興には、観光客の新たな嗜好に合わせながら、インバウンド市場の多様化と拡大、国内観光の促進、労働市場の課題への取り組みなど、多数の課題への対処が必要です。

インバウンド観光を多様化するためには、ASEAN域内の観光事業を増やし、インドの観光客や駐在員などの未開拓市場をターゲットにすることが考えられます。パンデミックの間、国内観光が同セクターの存続に大きく貢献しました。国境を越えた旅行規制がなくなっても、ローカル旅行や「地域再発見」への需要は高まっています。これにより、海外からの旅行者への依存とカーボンフットプリントを減らすといった利点もあることから、国内観光事業が優先課題となり続けます。

また、観光労働市場の課題に取り組むことも重要です。同セクターは、中小零細企業が大部分を占めていることが特徴で、非正規労働者や弱い立場の労働者の割合の高さなどの課題に直面しています。技能を有する労働力の確保、訓練、維持などの支援が必要です。解決策としては、観光事業労働者に対する言語、デジタルスキル、ホスピタリティマネジメントなどの有用なスキルのトレーニング、地域レベルの中小零細企業への支援、地域社会への参加の促進、労働力の多様性の推進などが挙げられます。

新型コロナウイルス感染症パンデミックと関連する規制により、観光客の嗜好も変わりました。ロックダウンを経験し、自分だけの空間を求める人々は自然に親しめる観光地に引かれる一方、健康やウェルネスに注目する人々も多く、これらのサービスの需要の増加につながっています。

### 持続可能な観光事業の強化とデジタル化の促進

パンデミックからは、より持続可能な実践を取り入れ、これらをグリーンエコノミー・ブルーエコノミーの中でより全面的に統合させ、観光事業やホスピタリティセクターを時宜にかなったものへと見直す機会が教訓として得られました。

観光地や地域の環境に損害を与え、住民の生活を混乱させるオーバーツーリズムへの対処には、ビジター・マネジメント戦略が有効です。また、エコツーリズムなどのニッチな代替形態の提供により、持続可能な観光を推進させ、同セクターの多様化にも役立ちます。マスツーリズムに代わるものとして、住民のスキルアップや地域文化の再興を可能にする地域密着型観光事業プログラムも登場しています。企画においては、企業が相互利益のために協力し合う連携を強化しながら、収益の地域外への流出防止の重視が必要です。

パンデミックの規制や健康への懸念に触発された旅行・観光事業におけるデジタル技術の利用拡大も、政策立案者が注目すべきポイントになります。観光セクターは、オンライン予約プラットフォームや e コマースなどのデジタルツール、ソーシャルメディア、仮想・拡張現実体験などを取り入れています。新興アジア諸国の課題としては、情報通信技術インフラ整備、サイバーセキュリティ、デジタルスキルの格差、観光統計の整合性の不在の改善が挙げられます。

### 新興アジア諸国における国別観光事業の課題

アウトルック本編では、新興アジア諸国が直面している政策課題に焦点を当てたカントリーノートを収録しています。観光地や環境の保護、インフラや人的資本の開発、観光事業の利益の地域社会への分配なども論じています。またカントリーノートでは、新型コロナウイルス感染症パンデミックの間の嗜好の変化に応じた、エコツーリズム、地域密着型観光、医療やウェルネス観光など、ニッチな観光サービスを開発・促進するための最新の取り組みも取り上げています。